

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA WAGO 名古屋和合 WEEKLY 2760 地区 REPORT

ENGAGE ROTARY CHANGE LIVES

ロータリーを实践しみんなに豊かな人生を

2013-2014年度 国際ロータリー会長 ロンD. パートン



2013-2014年度 会長 鷲塚貞長 幹事 服部 滋 クラブ会報委員長 佐藤公俊

創立/1972年3月15日 例会日/水曜日 12:30~13:30

例会場/ウェスティンナゴヤキャッスル 名古屋市西区樋の口町3-19 〒451-8551

TEL 052-523-1998 FAX 052-531-0727

2014 may 7

■ 2013~2014年度方針

“原点に戻り 品格あるアドバンス”

Return to basics Advance with intelligence

NO.39

例会報告

- 第2035回例会 平成26年5月7日(水) 晴
- 5月はみんなに豊かな人生かどうか考える月間(地区)
- 君が代
- ロータリーソング 奉仕の理想

●出席報告 会員 107 名中 出席79名
(103)
出席率76.70%
(4月16日分 修正出席率94.74%)
(4月23日分 修正出席率91.92%)

●ゲスト紹介

・ゲストスピーカー

名古屋外国語大学学長 亀山 郁夫氏
元米山奨学生 デバコタ ジバナト君

●ニコボックス

「本日入会されます。足立吉正さんです。どうぞ宜しくお願い致します。」

夏目 稔君、浅野 洋君、田中知克君
「本日より入会させていただきます。どうぞ、よろしくお願ひ申し上げます。」 足立吉正君

「4月23日のマージャン会で2回目の優勝をしました。ボケ防止の為に年取ってから始めた為、皆に散々馬鹿にされながらやってきましたので運にしても嬉しかったです。」 松原忠久君

「4月27日、ゴルフ通の会にて優勝者早退の為に繰り上げ1位となりました。」 亀井敏勝君

「先日、妻がゴルフのコースデビュー致しました。老後の楽しみが増えました。」 梶田浩太郎君

本日のニコボックス	5件	17,000円
累 計	198件	2,043,000円

服部 滋幹事報告

▽当クラブ行事予定

- ・5月7日(水) 本日、例会終了後、次年度クラブアッセンブリーを行います。理事、役員、次年度の委員長の方の出席をお願い致します。
- ・5月17日(土) 5月21日(水)を例会変更致しまして、春の家族会。劇団四季のミュージカル、「美女と野獣」を鑑賞します。集合 12時30分 新名古屋ミュージカル劇場エントランス。開演 13時~15時50分(休憩あり)。

例会受付 17時30分~(予定)
ウェスティンナゴヤキャッスル。

※5月21日(水)が例会変更となるため、5月21日(水)のお昼の例会はございません。お返事のない方は、事務局にご提出ください。

・5月28日(水) 例会終了後、クラブアッセンブリーを行います。クラブアッセンブリー終了後、理事会を行います。

・6月11日(水) あじさい夜間例会、か茂免、18時~。
※ウェスティンナゴヤキャッスルでのお昼の例会はございません。

※本日、ご案内を配布しております。

鷲塚貞長会長挨拶

“初めは良かった綱吉さん”

元禄時代は、とかく話題の多い時代でしたが、綱吉時代の2大事件は、なんといっても赤穂事件(芝居の忠臣蔵)と、お犬様騒動でしょう。

「忠臣蔵の浅野内匠頭ね…」 「何ですか、その忠臣蔵」 「忠臣蔵知らないの」「あっわかった、冷蔵庫でしょ」「…」、若いお嬢さんが答えました。

入試が日本史を軽んじるから、忠臣蔵を、中央に野菜入れのある冷蔵庫の、キャッチコピーと間違える若者が増えています。

さて、問題の“生類憐みの令”ですが、これは1本にまともな布令されたものではなく、次々と出されたものの総称です。

初期の布令は、弱者救済、動物虐待の防止など、大変格調高いもので、具体的には「捨て子や、行き倒れを見つけたものは保護せよ」、「馬に過重な荷を負はせてはいけない」、「將軍の行列を、イヌやネコが横切ってもお構いなし」(人が横切れば切捨て)、などなど。

まさに綱吉は、動物愛護の先駆者と称賛に値するものです。

父の家光は、四男である綱吉に、弟としての分をわきまえるよう、儒教を厳しく教育し、本人も学問好きであったので、家臣に儒学の講義を自身で行ったり、儒学者を重用するなど、学究肌の將軍であったようです。

おかしくなりだしたのは、一人息子の徳松が、幼くして病死してからです。

シジも食べるな、蚊も殺してはいかんなど、もうメチャクチャで、エスカレートの最大の原因は、諸説がありますが、ポスト徳松の、世継ぎが授からなかったことでしょう。

將軍家や大名に世継ぎがないことは、今の感覚では想像もできない重大事です。

なぜできなかったのか?、徳松の父は綱吉でなかった、

綱吉は男としてのパワーが弱かった、父家光の様に、下女に手を出さなかった(当時の白粉は鉛を含有し、その鉛毒で大奥の上女中などの受胎率は悪かった)など色々ありますが、ともかくできなかった。

下女出身の生母お玉(桂晶院)が心酔する僧侶の進言の、戊年の綱吉が、前世で動物虐待したから説、不良旗本や町奴(愚連隊)のイヌ狩、イヌ食を防止し、ならず者召し取りの口実強化説、色々ありますが、ともかく迷惑したのは庶民です。

ただし、お狩場の農民は喜びました。勢子(獲物追い出し係)としての狩り出し、地元接待など、物心ともに散々な目にあっていて、あのいまいまいお鷹狩が廃止されたからです。

布令の悪い部分だけが強調されたのは、徳川のやったことは何でも極悪との、明治政府のプロパガンダ(ゆがめられた宣伝)もあったようです。

卓 話

『カラマーゾフの兄弟』の3つの言葉

名古屋外語大学学長 亀山 郁夫



概要 ドストエフスキーの最後の長編小説。1880年刊。地主フォードル・カラマーゾフには、ドミートリー、イワン、アレクセイ、スメルジャコフの4人の息子がいる。ドミートリーは美女グルーシェンカを父フォードルと争っている。イワンは父を深く嫌悪している。下男のスメルジャコフは、自らが心酔するイワンの意識下の願望を実現すべく父を撲殺する。その

下手人としてドミートリーが捕らえられる。事の真相を知ったイワンは発狂し、スメルジャコフはイワンに失望して自殺する。

言葉1 「悲しみのなかに幸せを求めよ」(1巻p201、13行目)

◇喜怒哀楽こそが、ドストエフスキー文学の生命である。喜び、悲しみを感じることでできる心こそが、人間であることの証である。59年の生涯をとおして、彼は、さまざまな不幸や悲惨を見聞き、そこから限りなく豊かな言葉を紡ぎ出していった。不幸は、むろん、ドストエフスキー一人のものではない。悲しみは、この地上に生きている人間の宿命である。死は避けがたく、不慮の死が世界に満ち満ちている。ドストエフスキーを読むと自ずから浮かぶ言葉がある。「エンパシー」(Empathy)である。「共感力」の意味をもつこの英語が、今の私にとっての最高の信条である。自分の悲しみや幸せにはどこまでも敏感だが、他人の悲しみや幸せとなると、驚くほど鈍感である。現代の日本には、そうしたエゴそのものであるような人間が、破滅的な勢いで増えつつあると私は感じる。ここ数年、そうした現象に抗したいと願い、「エンパシー」の大切さを訴えている。私は、この精神をドストエフスキーから学んだ。ゾシマ長老が愛する弟子アレクセイに告げた一行である。人々が日常的に経験している悲しみに寄り添い、そのなかに、自分の生きる使命を見出しなさい、とドストエフスキーは説いている。東日本大震災から三年、悲しみは遠のきつつあるが、苦しみは今も尽きることはない。悲しみに学び、生きる使命を見つけないてはならない!

言葉2 「辱めを、喜びとともに耐えよ」(1巻p237、13行目)

◇ドストエフスキーの人生における最大の試練とは、彼が27歳の年に経験した死刑宣告であり、シベリア流刑である。現代の基準から言えば、ほとんど無実にもとしい罪で死刑場に立たされた。むろん、ドストエフスキーが受けた試練は、きわめて例外的なものである。しかし人間はだれしも、一度や二度、言われのない咎や辱めを受けた経験があるはずである。かくいう私も、やはり、これまで何度かつらい経験をしている。しかし、自制し、耐えた。辱めに耐えることができれば、辱めを与えた人間よりも上に立てると考えたからだ。むろん、「喜びとともに」耐えることは困難だが、耐えることのなかから、喜びが生まれた。大切なのは、許しである。時には、いっさい無視することだ。無視や無抵抗ほど、つよい抵抗はない。

言葉3 「人を愛するものは、人の喜びをも愛する」(3巻p102、1行目)

◇愛とは、往々にしてエゴイスティックである。愛する相手について、私たちは自分の都合のよいように空想し、時に、相手が不幸であればあるほど愛しがいもあるなどという傲慢な考えに陥ってしまう。相手の悲しみは愛することができても、相手の喜びを愛することはなかなかむずかしい。だから、たとえどんなに愛しあう二人でも、ほんとうの意味で一心となることは不可能に近い。徹底して引き裂かれた人間だったドストエフスキーは、愛にひそむ矛盾に精通していた。フランスの哲学者ルネ・ジラルドに「欲望の模倣」という言葉があるが、ドストエフスキーはまさにその哲学の犠牲者だった。「欲望の模倣」とは、端的に言えば、「隣の芝生は青い」という、ごくありきたりな感情だ。人が欲しがものを欲する。「人を愛するものは、人の喜びをも愛する」というとき、そこには、彼が引き裂かれつつも到達した「無私」の境地が息づいている。愛は、最終的に、自己犠牲と無私によって完成する。

新入会員紹介 (2014. 5. 7入会)

- あだち よしまさ
●足立 吉正君 (S51.6.28生)
- ・事業所 (株)足立ライト工業所 取締役
 - ・〒485-0825 小牧市下末630番地 TEL <0568> 76-8288 FAX <0568> 76-8312
 - ・職業分類 娯楽機器製造
 - ・所属委員会 親睦活動委員会
 - ・紹介者 夏目 稔君、田中知克君



例会	月日	今後の予定
第2036回	5.14	会員 福田哲三国際奉仕委員長「カンボジア水事業支援プロジェクト」
第2037回	5.17 (土)	春の家族会のため 新名古屋ミュージカル劇場 12:30~集合 開演13:00~ 15:50(休憩あり) 例会受付17:30(予定)~ ウェスティンナゴヤキャッスル 5/21(水)を例会変更
第2038回	5.28	新入会員自己紹介 千住憲夫君、マスクリ・ニート君

○このウィクリーは再生紙を使用しております。